

全体会午後の部 I

司会者(an・al) 着席してください。ただいまより全体会午後の部 I を行いたいと思います。

午後の部の司会をさせていただきます板野中学校の3年 an と、板野中学校3年 al です。よろしくお願いします。



午後の部は前半の I と後半の II の2部構成になっています。最初に意見発表を2本していただき、その内容を通して、みんなで人権について語り合いたいと思いますので、皆さんどうぞ協力よろしくお願いします。

まず前半1本目の意見発表です。松茂中学校2年 bp さん、「忘れられること」です。よろしくお願いします。

「忘れられること」

松茂中学校2年 bp

あなたにとって、一番怖いこと、恐れていることは何ですか。例えば、人に嫌われること、悪口を言われること、仲間外れにされること。いろいろあると思います。でも、私にとって一番怖いことは、「忘れられること」です。人に嫌われたり、悪口を言われたりするのには、自分の存在を認めたくなくてできることです。しかし、人は時に、「病気」によって、存在さえも忘れ

られることがあるのです。

ある国で作られた、ショート動画の話です。バス停に、1人の妊婦さんと、1人のおじいさんが座っていました。おじいさんは、お腹の大きな妊婦さんを見て、「今、何カ月だい。家族はどこかな。1人で大変だね。」と声をかけます。すると、妊婦さんは、「もうすぐ生まれるの。家族はいるわ。でも、いろいろあってね。」と涙を流しながら話します。その後、バスが到着し、妊婦さんは、「行くよ。お父さん」と優しくおじいさんの手をひいてバスに乗ります。おじいさんは、「認知症」という病気で、自分の娘のことを忘れていた場面のことでした。私も、身内に認知症の人がいます。まだ進行していないので、家族のことは覚えているけれど、たまに、いいえ、よく私の名前を忘れて、違う名前と呼ばれます。「私」という存在が、心にあるからいいけれど、「いつか忘れられてしまうのかな」と思うと、すぐくつらくなって、「その人の記憶の中に生き続けたい」と強く願うことがあります。

認知症の人と話をしていると、何度も何度も同じ話をされます。正直に言うと、少しイラっとすることもあります。だからこそ、私にはいつも心に留めていることがあります。それは、本人だって「なりたくてなったわけではない」ということです。誰しも、病気になりたいとは思わないと思います。だから、本人に怒るより、病気に怒るべきだと考えています。



私の家族は、認知症に対して、否定的な考え

を肯定的な考えよりも多く持っています。けれど、私はそうではありません。なぜなら、認知症は防ぐことができるからです。そのため、進行を遅らせたり、防いだりするために、たくさんの人に正確に理解し、学び、その知識を広げていって欲しいと思っています。

それでも、私の母は、「認知症」に対して誤った考え方を持っていました。それで、この作文を書くことに対しても反対していました。

しかし、病気は目に見えません。それは差別も同じです。私は、隠す、隠さないは、本人の自由だと思います。けれど、周りの人がそれを決めたり、恥ずかしいと思ったりするのは、絶対に違うと思います。

認知症には、「若年性」というものがあります。だから、私だっていつなってもおかしくありません。もし、私が今なつたとして、今の友達は、変わらず仲良くしてくれるでしょうか。

「恥ずかしい」とか「隠して」なんて言われたら、自分自身の「人権」を傷つけられたような気持ちになってしまうかもしれません。しかし、これは認知症だけの話ではありません。最初にも言ったように、人は忘れられたり、忘れたり、見えないものや未知のものに対し、恐怖心を抱きます。つまり、「病気」という一つのレッテルに恐怖があると思います。それにも関わらず、同じく目に見えない「差別」は平気です。私はずっと、「どうして怖くないのだろう」と、疑問を感じています。それはきっと、差別をしたらどうなるか見えているし、わかっているのに、自分の欲望や不満、価値観に甘えて、目を閉じているからだと思います。こういった、「少しくらい」とか「ちょっとなら」という自分に対する甘えが、今の社会で問題になっている、人権問題、差別問題に繋がるのだと思います。

この作文を聞いて、少しでも人権、差別に対して、自分なりの考えを一人でも多くの人に、しっかり持って欲しいです。私も、家族で話し合いの時間を取って、正しい知識を身につけ、間違った考えを捨てたいです。間違った知識や

考え、そして、そこから生まれる差別は、数えきれないほど存在しています。けれど、それは相反するように、私たちが生きる社会には、数えきれないほどの優しさと、数えきれないほどの思いやりがあふれています。いつか、少しでも恐れるものがなくなり、笑顔で暮らせる世界が来ることを願っています。人権学習は豊かな未来をつくる希望であり、これからも永久に続いていきます。

司会者(an) ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。

続いて、前半2本目の意見発表です。板野中学校1年 ar さん「心声をきく」です。よろしくお願いします。

「心声をきく」

板野中学校1年 ar

私が右耳の異変に気付きはじめたのは小学2年生の頃でした。祖母に相談すると、すぐに母に伝えてくれて、数日後、私は母と大学病院に行きました。その結果、私は高度難聴であるということがわかりました。それでも当時は、自分でもよくわかっていなかったで、それまで通りの生活をしていました。



小学5年生になったある日、ふと頭をよぎったことがありました。それは、「私の耳はいつか治るのだろうか」ということです。「きっと治るよ」という答えを期待して母に聞いてみ

ました。ところが母からは全く反対の答えが返ってきて、治ると信じていた私にとって、それは大きなショックでした。

ある時、学校で先生の質問を聞きまちがえて、ふざけたような答えをしたと先生を誤解させてしまったことがありました。また、人混みでの会話が苦手なため、会話は一対一になることが多いのですが、それでも相手の声が聞きとりにくい時は、何度も聞き返さないといけなくなって、日常生活では困る場合も時々あります。

聴覚のことについて調べてみると、世の中には私のように聞こえにくさのある人がたくさんいることがわかりました。自分と同じように悩みをもちながらも強く生きている人がいることを心強く思いましたが、なかには耳が聞こえにくいことで差別を受けている人もいることを知って悲しくなりました。私のまわりには私の耳のことを悪く言ったり責めたりする人はいなかったし、家族や友達は私に対していつも一人の人間として変わりなく接してくれたので、差別を受けている人がいるということは信じがたいことでした。

それからさらに差別について調べてみると、相手が理解できないだろうと思って無視したり、コミュニケーションを拒否したりなど、偏見の目で私たちのことを見ている人もいることがわかりました。わざと聞こえないようにしゃべって面白がったり、どうせ聞こえないからといって陰口を言ったりなど、いじめや差別をしている人がいるとわかって、胸が苦しくなりました。自分のせいではないことで悩んだり困ったりしている人を、いじめや差別によってさらに苦しめるという行為に、深い悲しみと^{いきどお}憤りを覚えます。

そんな心ない人々の差別を受けながらも、今を頑張って生きようとしている人たちを私はとても尊敬します。でも一方で、なぜ私たちがそんなに頑張らなくてはいけないのかと、ますます差別が許せない気持ちになります。

私は、誰もが暮らしやすい世の中になってほ

しいです。そのためには、自分自身の考え方から改めなくてはなりません。それは、相手の立場に寄り添い、心に目を向けるということです。相手を遠ざけるのではなく、その人の心の声を聞こうとすれば、きっと誰もが暮らしやすい世の中に近づいていくはずです。

私は、耳が聞こえにくい人の気持ちはよくわかりますが、他の差別については自分が差別をしてしまう側の立場になる可能性もあります。まずは自分が味わった苦しみを相手の立場に置き換えて、心の声に耳を傾けてみれば、どんどん考え方が広がっていくと思います。自分には関係ないと思っていたことにも、これから先、関わることがあるかもしれません。その時に、心の声を聞きとれる人になりたいです。そして相手にとって本当に必要なことを行動に移していきたいと思います。

この世の中のあらゆる差別は、本人だけの頑張りではなくすることはできません。でも、私のように耳が聞こえにくい人や、目が見えない人、そのほかの障がいがある人なども暮らしやすい世の中は、きっと実現すると信じています。私はまず自分自身が差別をしない人間をめざします。たとえ耳から相手の声を聞きとりにくいことがあっても、誰よりも心の声を聞ける人になりたいです。

司会者(al) ありがとうございます。

それでは、これから意見発表を通しての討議に移りたいと思います。発表についての感想や意見交換、参会者の皆さんの思いを語っていただければと思います。

マイク係として、松茂中学校1年cjさん、板野中学校2年apさんの2人がフロアをまわります。

なお記録の関係上、発表者は学校名、学年、名前を言ってから発表してください。それではよろしくお願ひします。



藍住中学校 3年 (aa) さっきの二人の発表を聞きまして、私の父方の祖母の話なんですが、私の祖母も認知症です。父のこと以外はたぶん私のことも多分分かってない。わからないと思うんですけど。月に1回ぐらい、コロナのせいもあるんですけど、それぐらいしか面会に行けないんですけど。私的にはすごい大好きだったんですけど。祖母のことが。祖母は私のこともわからないし。私の話題もわかんないんですけど。ある時に姉が、病院へ行く日、車の中でこんなこと言ったんですよ。おばあちゃんはまだ私たちのことを忘れとんやけん、行く必要あるって。そういうこと簡単に言える姉なんですけど。そういう姉が、私すごい苦手なんですけど。でも考えたら、よく考えたら普通に、祖母は私のことわからないから、やっぱ行って、「この人誰」ってなるのもあれやし。会話することはあまりしない方がいいのかなとか。やっぱ行かない方がいいのかなとか。やっぱり姉の意見も認めたくないけど、あってるのかなって。ずっとこの3年間ずっと考え続けてたんです。やっぱ間違ってたのかなって。今日この会でさっき発表聞かせていただいて、その人が病気だと分かって、会話を拒むっていうか、そういうのも差別の一種だっていうのを聞かさせていただいて、やっぱこれも差別なんだって。姉

の言ってたことも、ちょっと間違ってたんだって。今、間違っていたのかもしれないって気づくことができたんで、すごいよかったなって。やっぱり祖母のところへ毎月1回行くのは間違ってたなって思うことができてる、とても良かったです。私的にはすごいさっきの意見発表を聞いて、とても嬉しかったです。ありがとうございます。



板野中学校 3年 (am) 心の声を聞くことって、言葉にすると簡単なような気がするんですけど、たぶんそれは凄まじく難しいことで。ちょっとボクの情けない体験談を聞いてほしいんですけど。中1ぐらいのときに近所の公園に遊びに行ったら、泣いとる多分推定小4・小5ぐらいの小さい女の子がおって。周りに誰もなくて。でもなんか喧嘩とかしたような雰囲気でもないし。でもなんか親に置いていかれた様子でもなく、特に外傷とかもなく、なんなんだろうと思って。しかも一人でもう夕方6時とか回ってたんで、大丈夫のかなって声かけようとしたんですけど。その当時のボクは結局なんか日和ってというか、大丈夫って声かけよりも、こう思われたらどうしようとか考えちゃって。心の声を聞こうとしなかったというか、心の声を聞くことを怖がってしまったなって今思ってる。例えば人によったら、大丈夫とか頑張れとか、もしか

したらプレッシャーを与える言葉になるかもしれないし、何がある人の今のその状態にとって一番必要な最適解の言葉かって、たぶんもう正解はどんだけ頭を悩ませて出ないんですよ。どんな天才だろうと。それを、せめて最適じゃなくても、最善の言葉をかけてあげられるような能力っていうんですかね。その人にとって一番合いそうな、その人が一番必要としている言葉をかけてあげられるような人になりたいなと思いました。以上です。

板野中学校 3年 (ak) さっき bp さんの発表を聞いて思ったことなんですけど。うちのお母さんね、すごい自分が認知症になる気満々らしくて。「もし私が認知症になったら施設に放り込んでな」みたいなことを1年前ぐらいに言われたんですよ。急にびっくりするじゃないですか。それを聞いた時にボクもね、結構同じ考えだったんですよ。結構人に気を遣える方ではないので自分が。たぶんお母さんが認知症になって同じこと何回も言い始めて、「ご飯食べさせろ。ご飯食べさせろ。」とか言われたら、多分キレれるはずなんですよ。お母さんにキレたくもないし、施設に入れてあげたら最適の生活もできるし、ええやんみたいなことを思って。さっきの自分もさっきまで発表を聞く前までは施設に入れてあげて、自分の生活をしようなんて思ってた



んですけど。さっき発表聞いて、aa さんの意見も聞いた時に、初めてお母さんが施設に入ってこの世を去ってしまう時のことを想像したんですよ。その時に認知症ってことは自分の存在も忘れられてる可能性があるじゃないですか。その状態でお母さんにこの世界を取って欲しくないなって思ったんですよ。最後の最後までお母さんが産んだんやけん、お母さんが産んだ娘のことぐらいは覚えといてほしいじゃないですか。もし施設にお母さんが入ったとしても、声は毎日かけていこうかななんて具体的なことを考えてみようと思えるきっかけになりました。以上です。



高瀬中学校 3年 (cp) 差別をなくすにはまず自分が差別をしないことっていうのはボクも考えているんですが、これはとある同級生が言っていたんですが、女装したい？って聞かれた時、ボクは「無理無理、絶対いや」って言いました。これは恐らく、自分から出た差別ではなく、常識という認知の差別なんだから気付くことができました。だからボクは、自分が差別しないことよりも、まず常識という名の認知の変化が大切だと思いました。以上です。

松茂中学校 2年 (bx) ボクは何て言うか。ボクは最近耳がちよっと悪くなってきて、何回も



聞き返すことが多くなって。友達にもちょっと何て言った？っていうの聞き返して、心の中で、内心、心の中でうざがられてないかなと思ながら生活してるんですけど。ボクはイヤホンと大きい音量で聴いてるからだと思うんですけど。ボクはそういうのをマイナスに考えるんじゃなくて、ポジティブに考えていけたらと思いました。それと、ボクの兄、障がいのある兄なんですけど、今は家でお母さんとお父さんが介護しながら育ててるんですけど。たぶん、あまり自分も考えたくないんですけど、お母さんとお父さんがこの世を去っていったら、兄は介護施設に入ると言うんですけど。その前にボク、兄と一緒にいるんですけど。ボク、ちょっとすごいひどいこと言うんですけど。周りの状況って分かってないだろうなと思ってたんですよ。例えば映画観に行っている時に、本当は静かにしないとイケないんですけど、そこでちょっと騒いでしまったりとかしてしまって、空気を読めてないし。場の雰囲気とか分かってないんだらうなと思ってたんですよ。でも、みんなが兄の行動に注目しているときに、みんながそのやってることについて笑ってくれるときに兄がうれしそうにしていたので、それを見て、ちゃんと場の雰囲気っていうのが分かってるんだなって思ったし。あと自然とそんなこと

を考えていたから、自然と自分も知らないうちに差別をしていたんだなと気づいたし。ちょっと話まとまってないんですけど。兄のことを差別していたのは良くなかったし。この会に来て自分の見直すことも見つかったし。話はだいぶ逸れたんですけど。もっと自分も成長できたらなと思いました。ありがとうございました。

板野中学校3年(an) さっき ar さんが、自分は耳が悪いって言うこと言ってくれたんですけど、私がちっちゃい頃お母さんに病院に連れて行かれて何か検査したら、言語障がいっていう障がいがだったんですよ。言語障がいって皆さん分かりますか。たぶんあんまり聞いたことないと思うんですけど。人よりも滑舌が悪いみたいな、ハキハキしゃべっても何言ってるかわからないっていうか。「いきしちみひみいりい」が、「ひ」と「ち」が同じように聞こえるみたいな感じの、まあ滑舌が悪いっていう感じの障がいなんですけど。私ちっちゃい頃から司会とか、代表の挨拶みたいなのをすごいするタイプでやってたんですけど。小学校の頃にそういうことやってたら、すごい滑舌も悪いのになんでそんなことするのかみたいな感じで言われたことがあって。その時私は、その子は私が言語障がいということを知らなかったから仕方ないと思うけど、



そういう時にいつも私は、だつてわたし言語障がいやもんみたいな感じで、自分で言い訳に使うような感じのだったんですけど。でもなんかかっこ悪いなあと思って。そんな言語障がいがだとしても、綺麗にハキハキしゃべれるようになったら、なんかかっこいいじゃないですか。やけん、小学校の高学年から、集会委員会みたいな感じで、朝の朝会で司会とか挨拶とかする時あるじゃないですか。そういうのも全部やって、ハキハキしゃべれるようになったら、小6のときの集会委員会の先生から、すごい滑舌いいよねって言われてすごい嬉しかったんで。arさんも耳が聞こえにくいけど心の声を聞いている人になりたいみたいな感じで言っていて、かっこいいなって思って。だから私もこれからはずっとハキハキしゃべって、聞き取りやすいような司会とか挨拶とかしていきたいなって思いました。

中山中学校3年(df) 認知症なので、知ることが大切って言っていて。いろんな病気とかでも、まず知らないと最初に嫌だなとかって思っちゃったりしてたなって私も思って。まず嫌だなって思う前にちゃんと知って、それと向き合うことが大切だなって思いました。

司会者(an) ありがとうございます。他に意見ある方はいらっしゃいませんか。先生方や



一般の方も、発表とか意見を聞いて思うことがあればどうぞ意見をお願いします。

土庄中学校教員(ej) 実は教員なんですけど、実は教員になる前に知的障がいの方が勤められている場所で、自分も一緒にあの作業補助という形で働いていたことがあって。で自分それまでは一切知的障がいをもった人たちと接する機会がなかったんやけども、働きだしてすごい自分の中で大変なことに気づいたなと思って。たとえば、小豆島なんでフェリーに乗ることが結構多いんです。



フェリー乗っていると、どこからか奇声が聞こえてくることあるんです。すごく何て言うかな、うわあって飛び跳ねてる人を見るのがあって。その人たちが実は知的障がいをもってる人たちで。それまでの自分だったら、まあなんか変な人がおるっていう感じでおったんやけども、その知的障がいの人たちと一緒に仕事をすることによって、その人たちは実はすごく喜んでいるっていうのを、初めて気づいたんです。ていうのは、一緒に働いているといろんなことが見えてきて、楽しそうにしている瞬間とか、悲しそうな瞬間とかあって、自分たちと一緒にだなということに気づいたんです。

以前自分もっていた「あの人たちなんやろおかしい人かな」とかっていう視線。それが自分の中で本当にコロッと変わった。あの

人たちも自分たちと一緒に喜んでるんだって
いう気づきがあったんです。なので今は中学
校の教員をしてますけども、そんな話を子ど
もたちにすると子どもたちもすごくわかって
くれて、ああ、すごく自分にとってその人た
ちの立場を知るっていうのは大事だってい
うのを感じたことがありました。以上です。

藍住東中学校教員 dn 先生もしゃべっていい
って言ったので。私の祖母、今年95になるん
ですけども、もう数年前から認知症が始まり
まして。母親の実母なので、私の母、もうボ
ロクソに愚痴言うんですよ。あーじゃ、こー
じゃ、どーのこーのって。もう早う施設行き
ゃあいいのにとか。もうデイサービスのバス
が来て、今日行くん？て訊いたら、行かんで
言ようかと思うたら、3分後にはやっぱり行
こうかいなって。もうどっちなん、て言うて
も、はあーみたいになつとるので、まあイラ
イラして愚痴ばかり言うんですよ。ほんで
この春先、ちょっとですね、風邪ひきまして。
自分が風邪ひいたことが分からないんで、肺
炎の近くまで来てしまっ。大学病院に入院
したんです。そしたらね、それまで早う施設
行きゃあいいのって、もう毎日毎日3年ぐ
らいずーっと、まあそんなこと言わんと、ま
だ元気なうちやけんええでえって、ほんなこ
と言よんのに、大学病院行って、このままい
ったら重体になったらやばいよねってなる手
前までいって。まあ帰ってはくるんですけど、
その間ね、それまで施設行きゃあいいのに、
家からおらんようになったらいいのって、
ずーっと3年間愚痴言よったんですよ。それ
がね、病院入って、もうちょっと様子みまし
ょう、もうちょっと様子みましようって言い
出したら、もう早う帰ってきたらいいのにつ
て。もうどっちなんっていう話なんですけど。

小さい愚痴はたくさんあるんですよ。けど、
大きな意味で言うと実母がどうかなるってい



うのは、やっぱり自分の母ながらに。もうそ
んなだったら愚痴言わんでいいのって思
うんやけど、やっぱり聞き役は私しかいない
ので。もしかしたらあなたたちのお母さんも
そういうこと言うかもしれんし、あなたたち
もそういうこと言うかもしれんのやけど、で
も言ってる言葉と、思ってることは真逆のこ
ともたくさんあるので、それを真に受けて、
そやな、そやなって悪口にならんよう
にっていうのを心がけるようにしました。それ
とうちの娘が、そっちの実家の方に学校帰
りに寄ったりするんです。ですが、うちの娘、
ひ孫はもう分りません。もうよその子です。
よその子だったのが、ある日突然うちのきょ
うだい、妹がいるんですけど、その妹とくっ
ついてしまっ。孫がいつも来よると。高校
生の孫が来よるというふうに認識しとん
ですよ。それで、行くたびにお小遣いもらい
よんんです。1万円。毎日行くんですよ。毎日1万
円もらえるんです。もう渡したことは忘れ
とるけんね。毎日1万円もらえるんですよ。怖
くないですか。怖いでしょ。ほなけん娘にね、
ちょっと策を授けました。1万円をあげるこ
とに快感を感じとんですよ。1万円をもら
ったら、うちの母親がおばあちゃんに渡して、

同じところにまた置くんです。それが永遠に毎日毎日回ってるだけなんです。けど本人は、毎日毎日1万円あげよるっていうね。うちどんだけ金持ちなって思うとんやけど。そこに1万円がなかったら、今日も1万円がないって騒ぎだすんで。そんなことを楽しんでます。これ3万円入ってたらどうなるんだろうなって言うてね。そんなことを楽しみながらやると楽しいです。いいことを考えましょう。以上です。



八万中学校 2年 (bg) ar さんの発表の話なんですけど、同級生にあんまり話したりしたことはないんですけど、ある男の子がいます。その子は左耳が聞こえにくかったんですよ。小学校の何年生だったかは覚えてないんですけど。ある日、担任の先生がその子は耳が聞こえにくいから、3号車ってわかります？2列ずつ6列あって、1, 2, 3って感じで、こういうやつなんですけど。それを聞いて、その子に対してちょっとだけうらやましいなって思ったんですよ。なんでかっていうと、3号車ってこっち側に窓があるんですよ。特に冬なんですけど、窓からの気持ちいいね、お日様も照ってて気持ちいいんで、そこでのんびり心地よく、寝はしませんよ、寝はしませんけど、5時間目とか気持ちいいじゃないですか。でも、その子にとっては、3号車で気持ちよくぼかぼかできることより、耳が聞こえにくいデメリットの方が大きいと思いま

す。もし自分が同じ立場に置かれたら、私も左耳が聞こえないことの方がずっと辛いだろうし、3号車におれるだけで何が楽しいんみたいになってしまうと思うんです。だから、3号車におれることがうらやましいなってだけ考えた私は、ちょっと未熟だったのかなって思ったりしました。以上です。

板野中学校 3年 (an) 私、吹奏楽部に入っていて、部活9月までしているんですけど、私の一個下の学年に、しゃべれない、声が出ないわけじゃないんですけど、人前でしゃべるのが苦手な子がいて。同じ小学校で同じ学年だった子も、一言も声を聞いたことのないような子が吹奏楽部に入ってくれたんですけど、入ったときに名前聞いて、私けっこう下学年と関わるタイプだったけど、誰やっけてみたいな感じになって、見た瞬間に、「あ、この子か」って思ってめっちゃ不安だったんですよ。だって私が、体調悪い？って聞いても「無」って感じやし、ここのリズム分かる？とか言っても「……」みたいな感じやけん、コミュニケーションに困って、めっちゃ悩んだときがあったんですけど、しゃべれんのだったら書くのは大丈夫じゃないって思って。体調悪そうなときに、「何とかちゃんへ、体調悪い？大丈夫？無理せずに頑張ってね」って、手紙みたいなんで渡したら、「いつも気遣ってくれてありがとうございます。頑張ります。」みたいな感じで書いて、私に返しに来てくれて、すごい嬉しくて。そこからちょっと文通したり、誕生日の時には誕生日おめでとうみたいな感じでやったら絶対返してくれるし。めっちゃ嬉しくて。すごいなんかその子のところにいつも駆けつけていっぱい話しかけたり、まあ一方通行やけど、なんか笑ってくれたりするけん、すごい嬉しくていっぱいしゃべってるんですけど。ふと考えたときに、そんなグイグイいかれるんて人によってはちょっとウザいっていうか、



嫌やなって思ったりするんじゃないかなって思って、こないだ誕生日だったんで、書いてみたんですよ手紙に。「いつもグイグイいっちゃって、嫌だったかもしれんけど、いっばいやっちゃってごめんね」みたいな感じで書いたら、その返信の手紙に、「先輩が分からないリズムを教えてくれたり、いつも話しかけに来てくれたり、遊んだりしてくれるのが、私にとってすごい部活が楽しい理由にもなるし、とても嬉しいです。」って言われて、すごい嬉しくて。やったあって思ったんですけど。私たちの代、3年生も結構その子としゃべるし、すごい部活のみんなその子のこと大好きなんです。でも、私たちが抜けたら、その子とコミュニケーションが取れる子っているのかなって思ったんですけど、私がそうしてるのを見て、こないだ同じ学年の2年生の後輩とかが、同じようにコミュニケーションして話しているのを見て、めっちゃ嬉しくなりました。だから私が卒部しても、その子にとって部活が楽しくて、あと、いつも元気でいられるようなところになったんじゃないかなって思って嬉しくなったり。あと、その子が暗い顔しとったら、その子の同級生と同じパートの子たちが男女関係なく大丈夫かなって心配して。先生にも相談できるような、そんぐらい温かいチームになれて。すごい嬉しかったなって思って。arさんの心の声を聞くっていうのをこれからもずっと大切にしていって、その子にとって温かい環境を、み

んなでその子も含めて誰にとってもチームにとっても温かい環境をつくってほしいなって思いました。



チェリー 皆さんの意見を聞かせてもらって、すごい勇気もってしゃべってくれる方と、声は出せんけどうんうんて頷いている方やっばすごいな、みんないろんな意見あるんやろなと思って見させてもらってました。認知症のお話をしてくれた方の件で、私の祖母もすでに認知症で施設に入っているような状態なんです。認知症ってニュースでもよくされてるので、みんなもなんとなく分かってたりするのかなって思うんやけど、今日ちょっと家帰ってからお父さんやお母さんに話すネタとか、今後しゃべるネタとして知っていてほしい事件があったのでお伝えしようかなと思いました。

京都で起こった事件なんですけど、やはり認知症の人を介護をする中で孤独と闘う人って多いんです。自分しか見える人がいないっていう世界があって、京都伏見介護殺人事件っていうのがありました。それは結局、介護をしてた息子さんが自分の親である認知症の母を殺してしまうという事件なんです。それに対してやはり裁判官が、情状酌量の余地があるということで、その人を救うような結果が出たんですが、その後もやはり悲しいことってというのが起こっています。皆さんが今後考える問題とかいろんなことあると思うんですけど、今日それをちょっと調べてみてくれ

たら、また新しい意見が聞けたりするのかなと思いました。

高瀬中学校教員 ec 今日、前で踊ってくれた高瀬中学校の生徒たちと一緒に来ました。この板野郡、鳴門市っていうのは私にとっては思い出深い土地です。中学校の頃からよくこちらへ来たら、「びんび家」っていうところに寄ってね、お刺身食べて帰れるところっていうのがまず出会いです。頷いてくれてありがとう。今日は「びんび家」に行けないのが残念です。

二つ目の出会いはね、教員になって坂出中学校で野球部の監督をしていました。香川県大会2連覇、すごいでしょ。ところが四国大会2連敗。相手は2年連続、北島中学校。ものすごい左ピッチャーがおったんです。決して忘れられない板野郡です。

そしてその後、森口先生や吉成先生のこの人権学習の活動に出会って、高速道路でこのあたりを通る度にね、「板野郡かあ、北島中学校は、森口先生は、吉成先生は…」と思いつながらいつつも通っていました。

私は定年退職して、5年間の再任用というのも済んで、それで高瀬中学校へ今年4月に来ることになったんです。高瀬中学校は去年からこの交流集会に参加していると聞いていたので、ほんまにびっくりしました。

実は9年前にも徳島の交流集会にやって来てね、こうやって徳島の皆さんがお話しているのを聞きながら、私も発表させてもらったことがあるんです。この空気の中にね、9年ぶりに来られるなんて、しかも生徒と一緒に来られるなんて、まさか夢にも思っていなかったんです。

今朝、高速道路で高瀬中学校の生徒と一緒に来ながら、彼らは、歌って踊れる中学生なんですけどね、皆さんとこの中学生集会に参加することで、語れる中学生になっていくんじゃないかな、しっかり聴ける中学生になっ

ていけるんじゃないかなって想像していました。そんなことを思い出しながら、私も後ろでしっかり聴いていました。

それでね、「認知症」の話なんですけども、実は先日、脳ドックというのに行ってきました。スキャンでカンカンカンと結構長い時間、頭の輪切りの写真を撮りましてね、そしたらこのあたりにね、白い影があるんです。再検査をせないかん、できるだけ大きい病院がええということで、家族の勧めもありまして、お盆が終わったら行ってこようと思っているんです。だんだんそういう年齢、家族に言わせたら、もうお父さんやばいぞという状態、年齢になっているんです。

何が言いたいかという、私はもう65歳を超えているんですけどね、こんな私でも中学生の皆さんの話を聞いているとね、私も話をせないかん、語らなければいかんと思えてくるんです。「すごいな、中学生は!!」って、そんなふうに思えてくるんです。特に、徳島の板野郡のこのあたりの中学生はすごい、もう前からずっとそう思っていました。なんでもかかっていうとね、やっぱり人権学習なんです。

この人権学習は不思議なことにね、「エンパワメント」という言葉を皆さん覚えといてください。「エンパワメント」知っている人手を挙げて…。あ、知っている人いますね。人権学習にはね「エンパワメント」という力があるんです。それは何かっていうのを簡単に言うとね、人間にはいろんな欲があります。金持ちになりたい、美味しいもん食いたいとか、楽しみたいとか。そんなんじゃないくてね、同じように、よりよく生きたいとか、成長したいとかね、差別に負けんぞ、差別なくすんだというような、そんな欲と力を人間はもともと持って生まれてきてるんです。

人権学習を通して、そういう力がしっかりと呼び覚まされていくんです。みんなにも生まれた時から体の中のDNAかどこかにあるんです。それが、今日のさっきの提案なんか

を聴いていると、しっかり呼び覚まされていくんです。マイクを持って語り始めている皆さんの姿をまた今日しっかり見させてもらいました。

中学生ってのは、本当にすごいなって思っています。私のような歳になってくると、すごい中学生にたくさん出会っているんですが、皆さんに今日伝えたいな、紹介したいなと思っている中学生のことを一つ言わせてください。



もう戦争が終わって78年。今日は、広島原爆記念日です。実際に原爆の体験をした方というのは、だんだん少なくなっている。語り部さん、その時中学生だったとしても、もう88歳、「認知症」の世界なのかもしれませんよね。私は、その語り部さんにいろんな話を聞かせてもらう機会を平和学習などで作ってきました。

今年、高瀬中学校の3年生は沖縄へ修学旅行に行つてね、語り部さんに語ってもらったんです。でも、実際に戦争の体験をした人の話はあと10年もしたらもう聞けないかもしれないですね。だったらどうするのか。

沖縄に、すごい中学生がいました。那覇市の安岡中学校、演劇部の中学生たちが、ひめゆりのいろんな語り部さんの話を聞いてね、自分たちでひめゆりの劇を始めたんです。自分たちが語り部さんのお話をしっかりと受け止めて、今度は、自分たちがそれを伝える番になろうということなんです。

彼女たちは戦争なんて体験してないですよ。でも沖縄の3つくらいの中学校が、そんな劇を創作しながら語り部さんたちの体験を伝えるという活動を始めています。

そうした中学生の演劇全国大会もあるみたいです。調べて是非、見てみてください。中学生ってすごいですね。沖縄県の安岡中学校。その中学生たちも皆さんと同じような目をしています。

高瀬中学校の生徒たちもね、その安岡中学校の生徒たちと同じような目をしています。踊っているとき、歌っているとき、今日前で踊ったときや語ったとき、今頷いてくれている子の目もそうなんです。なんでそうなんかという、「エンパワメント」。この空気感の中で、皆さんの体の中にある力がどんどんどんどん呼び覚まされていく、人権学習にはそういう力があるんだなということをつくづく、また今日実感しました。

さっきからずっとここでね、ぼけ一つとしところかなって思っていたんですけど、活性化してきたのか、ぼけてきとんのかよく分かりませんが、先生自身もそういうエンパワメントの力をもらって、今日は気持ちよく香川県に帰れます。

8月23日ですが、鳴門市人権地域フォーラムにもやってきて、またエンパワメントに出会いたいと思いながら帰ります。今日、すばらしい時間を過ごさせていただきました。それでは、高瀬中学校の皆さん、歌って踊って、そして語れる中学生、しっかり聴ける中学生になって今日帰りましょう。頑張ってください。よろしくお願ひします。以上です。

高瀬中学校3年(cm) 私の叔母も難聴を持っていて、完全に聞こえないわけではないんですけど、少ししか聞こえないという状態で。その叔母は神戸に住んでいて、1年に1回会えるか会えないかぐらいなんですけど。会話するとき、スマホで会話したら文が表示され

るアプリを使って、いつも会話をしている。その会話で聞こえない部分があると、私が聞き返すといつもなんか「ごめんね」っていうふうに言われていて。なんでなりたくてなったわけじゃないのに、申し訳ない思いをさせてしまうのが、すごい私も苦痛で。その叔母と話をしていたときに、悪口って絶対高い声より低い声で話すじゃないですか。難聴の方、叔母だけかもしれないんですけど、低い声の方が聞こえやすいらしくて、みんなは聞こえないと思ってぼそぼそ言った悪口とかの声が共通して低い声で、その声がすごい聞こえやすいついていうのを知って。なりたくもないのに悲しい思いとか、人に対して申し訳ないなって思いをさせてしまっているのが、すごい苦痛で。そういう人たちの心が狭くなるような社会じゃなくて、短所とか長所とかを補っていけるような社会になったらいいなって思いました。以上です。



藍住中学校 3年(aa) 2回目の発言なんですけど、私もチェリーさんと同じように皆さんに知ってほしい話があって。知ってる人も多いと思うんですけど、何年か前に大量殺人というのが、高齢者施設で起こった。殺人を行った男性が、高齢者、動けなくなった人たちは社会にはいない、いない方がいいっていうふうに考えて殺人を行ったという有名な話があるんですけど。それでこの前私が見たのが「こころの時代」というNHKの番組があるの知ってますか。私たまに見てるんですけど、

番組で放送された忘れられない回があるんですけど。その殺人事件でね、高齢者を襲った男性に是非とも話がしたいという、日本にある教会の牧師さんがいまして。その男性と一室で話したそうなんです、2人で。いろんな話をしたんですが、その男性はやっぱりずっと最後まで自分のしたことは間違っていない、私はあの施設で殺人をしてよかったって、そういうふうに言い続けたらしいんですけど。最後の最後に牧師さんが言ったんですね。「じゃあ、あなたはこの殺人をしたことで、誰かが楽になったり、誰かの役に立ちましたか。」って。そしたらその男性が、「いや、そんなことはない。」って言い出したんですね。なんかすごい自分もはっとさせられて。みんなに知ってほしいなって思います。自分がいない人だって、社会には不必要だって、そういうふうに思っているけど、誰かにとっては大切な人で、その人それぞれにいろんな思いがあって、そういうのを分かって生活できているかっていう。自分もさっき言った通り、祖母が認知症ですし、あまり私は祖母のことを否定的に思わないんですけど、そういう考えとか私はなくしていきたいと思っています。ありがとうございました。



板野中学校 3年(am) また障がいのお話で申し訳ないんですけど、ボクの家は今ハルっていうかわいい三毛猫がおりまして。ほんまにかわいいんですけど。その猫はもとは保護猫で、保護猫カフェみたいところがあって、そこ

で3年くらい前に保護猫だったらいいよってことで探しに行ったんですよ。その時に真ん中の次男がほしって言い出して探しに行ったんですけど、次男が最初に見つけてきたこの子がいいって言った猫が3本足の猫で、右手が1本ないんですよ。結構その子はすり寄ってきていてかわいかったし、同じ三毛猫だったんですよ。それでまあ、お父さんお母さんもまあいいかなってことになってたんですけど、家帰って、じいちゃんばあちゃんも一緒に暮らしとんで、じいちゃんばあちゃんにも3本足のこの子は飼ってみたいと思うんですけどどうって真ん中の弟が言ったんですけど、その時は、「3本足なんてやめとき、めんどいよやめときな」っていうふうに、わりと一蹴されてしまっ。ひどいこと言うなと思う反面、もし猫でも言うたってまあ小さくても10年くらいは生きるじゃないですか。その10年間くらいの中で家を出ることがあったとしても、少なくとも最低5、6年は家におるはずなんで、足が1本ない、まあ名前決めてなかったですけど、足が3本足の子をずっと愛してあげることができるかなって思ったら、ちょっとどうだろうなって思う自分もおるんですよ。だって、なんだろう、ちょっと猫がすり寄ってきた時に、ふと見たら足が3本足なわけですよ。正直、ボクはわりと偏見あった方、あった方というか現在進行形であるので、正直その猫はちょっと長い目で見たらもしかしたら、1年2年と経っていったらボクはちょっと愛着はもてなくなるかもしれないなって思ったんですよ。そうなったときに、まあけっこう猫好きなんですけど、猫好き、猫好き言いながら、例えば世のみんなが思い浮かべる、ちっこうて足4本のかわいい猫じゃない、ちょっとイレギュラーな、ちょっと3本足の、ちょっと言い方が悪いけど変な、ずっと愛せないかもなって思ったときに、さっきの認知症じゃないですけど、じいちゃんばあちゃんももう70後半なんで、まあ元気

なんですけど、もしかしたら認知症とかかかるかもしれないじゃないですか。そうしたときに、ボクはじいちゃんばあちゃんとかにわりと冷たく接してしまうとか、配慮がないとかそういうことになってしまいそうだなって、その時の自分を今見たら余計思うんですよ。今はもう家にはまた別の保護猫の子が今はおって、ちゃんと暮らしとんでですけど。普通の体のね。子がおるんですけど、あの時もし、じいちゃんばあちゃんの意見にのまれずに、「いや、でもこの子かわいいし、別に足が1本ないだけやし。」って言えば、今も残っとなるであろう弱い自分を少しでも切り崩せたのかなと、ちょっと今いろんな人の話を聞いてて、若干悔しくなりました。以上です。



松茂中学校 2年 (ca) 私の家族にも障がいがある人がいて、歩いたり立ったりとかもできないし、しゃべることもできないんですけど。家族とかで、心の声を聞いてあげることで、ちょっとでも、今施設にいるんですけど、施設で過ごしやすくなっていけばいいなと思いました。昔、祖母がその障がいのある家族が、母のきょうだいなんですけど、母のきょうだいを育てるときに、1回風邪引いたり体調崩したら、なかなか治らなくて、大変だったということを作文に書いて。私だったら長くても2週間くらいで治るけど、そんな2週間じゃ治らないような風邪とか引いたときに、夜も眠れなくて、体があまり動かんようになってたりとかしたっていう話を聞いて。私はそ

んな経験がなかったんで、その作文を読んでからというか、読む前もそうだったんですけど、読んでからより祖父母を尊敬するようになりました。ありがとうございます。



中山中学校 2年 (dg) 私にもお母さんのお母さんのお母さん？おばあちゃんのお母さんが、ちょっと認知症っぽい感じで。私のことちょっと忘れかけてるんですけど、いや忘れてるんですけど。この前ちょっと会いに行ったときに、誰だっけって言われて、ちょっと悲しかったんですよ。で、なんかもう思い出してもらえないなら、会うのもやめようかなみたいなことをちょっと前まで思ってたんですけど、今日話を聞いて、諦めちゃダメだなって思ったし、思い出してもらうためにちゃんと1ヶ月に1回会ったり、昔の思い出とかも話したりしていきたいなと思いました。ありがとうございます。



松茂中学校 2年 (bx) 障がい者つながりで。2001年の9月だったかな？にあったアメリカ同

時多発テロ、あったじゃないですか。その話で聞いたことがあるんですけど、死亡者の中に障がい者の方が入っています。アニメみたいな映像で見たんですけど、起きた会社の中で働いている障がいのある人たちが会社内に置いて行かれて、そのままにされてたというのがテレビでされていて。それがひどいなってなって。それで消防隊とかそういう人たちが助けに行ってたんですけど、たしか助けに行ったけど、タワーが倒れて巻き込まれてっていうのがあって。なんか階段とか上りにくいかあって、だからそのまま置いていったりして。自分の命を守るのは正しいですけど、障がい者を全員置いていって自分だけ逃げるっていうのはおかしいと思いました。



それで、もう一つ、言いたいことがあって、戦争に関してなんですけど。最近というか2022年に入ってからかな。ウクライナの方で戦争がずっと続いているじゃないですか。もう1年とかずっとなっていて。なんかプーチン大統領は3日間で終わらすとか言いながら、1年以上かけて何やっとなんじゃと思ってるんですけど。それも日本にも関係してるんですけど、物価が上がったりとかで。でも、テレビで池上さんが出ていろいろ解説するテレビがあるんですよ。それ見てたらすごい世界のニュースとかよく見れておもしろいなと思っていつも見てるんですけど。それで見たのが、日本と台湾と中国の領土問題についてなんですけど、これ中国側からしたら台湾っていう

国は自分の国の領土だって言って、国として認めてないというか、中国の習近平国家主席が祖国統一を目ざして台湾を取り込もうとしてるんですけど、台湾は中国から独立国家として頑張っていきたいと思ってるんで、そこで対立してるんですけど。そこでまあ日本もアメリカも台湾を守ろうとしてるんですけど、今も軍事演習とかして緊張状態が続いてるんですけど、もし起こってしまったら、沖縄に米軍基地っていっぱいあるじゃないですか。すごい面積で。だからもしアメリカ軍が来るなら、他の地域より台湾って沖縄に近いから、沖縄から必ずアメリカ軍が送られるんですよ、大軍が。てなったら中国側からしたら、そのアメリカ軍が来る沖縄を攻撃すれば軍が来ることはないから、楽に台湾をやることできる考えるので、ということは日本の沖縄を攻撃してくるってなったら、自衛隊が出て守りますよね。てなったら中国と日本が戦うことになってしまって戦争になる可能性が非常に高いって言って。だからもう70年くらい経って、戦争なんて日本にはないだろうと思ってたんですけど、まさかのそういう実態を知って、今すごくまたやばいことになり始めてるなって思って。あとそれについてなんですけど、ボクは祖国統一とか言っているんですけど、別にそんな関係なくて、台湾自体が独立国家としてやっていきたいと思っているなら、そのままにしてほしいし、中国はそもそもめっちゃ広い面積を持つてるんだから、もうこれくらいで十分だろうって思ってるんですよ、正直言って。たぶん台湾の人ももちろん中国の人も、戦争してほしくないと思ってると思いますし、中国に関しては独裁的なのが続いてるんで、批判的なことはできないですけど、絶対心のうちで戦争はしてほしくないと思ってるんで、この緊張状態が続いてるんですけど、そういうのが平和的な形で1人も犠牲者が出ないようにしたいです。ありがとうございました。



小豆島中学校 3年 (cx) 私の妹も発達障がいをもっていて、人と話したりすることが苦手で、でも人と接することはとても大好きで、知らない人にもいつも店とかで近寄って行ってあいさつをしてとか、いろいろあるんですけど。笑顔で迎えてくれる人もいる反面、この人変な人とか、普通の人じゃないとか言って避けられたり、なんか嫌な目で見られたりすることが多々あって、私もそれを見るのが結構つらくて、お母さんに「なんで妹はあんなにきれなあかんの？」とか言ってしまうんですけど。障がいを知らんていうのをしょうがないで終わらすのではなくて、障がいをもっと自分から知ってもらおうと周りに発信することが大事だなと思いました。

松茂中学校 2年 (br) さっきのbxくんの話で、戦争の話が出てきたと思うんですけど、ボクそれで言いたいことができてる。今、読書感想文書くのに、『永遠の0』っていう戦争を背景にしたおもしろい本読んでるんですけど。あれで出てくる登場人物の中に、戦争で腕をなくした人が登場してるんですよ。それで、生き残っても差別を受けてしまうと。作品の中で解説されてるんですけど、日本って国家に国民があおられて、戦争突入状態っていうのができて、いざ戦争が終わったってなったら、次は国家の空気が変わって、民主主義万歳とか言うようになって、逆に国のために尽くそうとした人が差別される立場になっただ

いう。戦争によって障がいを持った人はいわゆる被害者なわけですね。自分が国から命令されて、戦場に行って腕をなくして帰ってきた。でも、非難されるのはその人。ほんともう、その本見てる時に、腸が煮えくりかえるっていう言い方が、言いすぎかもしれないですけど、嫌な気分になるというか。今、日本で平和な国って言われてるじゃないですか。でも、やっぱりこういうことが昔にはあって。今でも障がいの差別とかそういうの続いているんで、昔のことを今の知識に応用するっていうことが結構大切なことなんじゃないかなって思います。これで終わります。



司会者(al) ありがとうございました。他に意見や感想はありませんか。

ではこのあたりで午後の部Ⅰの話し合いを終了し、10分間の休憩を取りたいと思います。10分後には元の席に戻ってきてください。

